

狩生の民家に伝わる

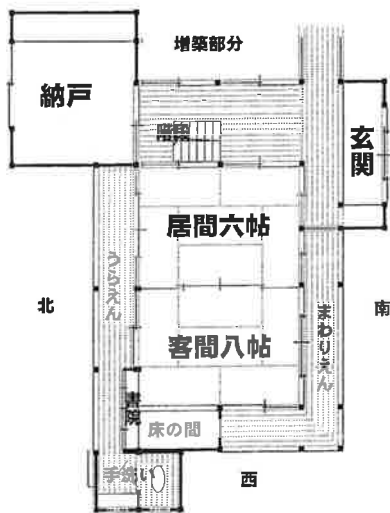
扁額(高泰)と襖絵(南崖)

野々下 静

(会員 佐伯市狩生)

狩生に御浜御殿を移したのではないかと伝える民家が二件あって、佐伯市文化振興課に調査依頼をしていたところ、昨年十二月に山田健一課長と佐藤巧文化財調査委員が検分に訪れた。

一件は寄棟屋根に瓦庇が廻り小規模ながら気品のある外観で、間取りは六帖二間に回りえん一部分が天井の低い二階となっている。客座敷の六帖には床と書院が付いており、長押や欄間など格式のある内部意匠である。二階の天井は低いが六帖に床と違い棚が付き、南東面に見晴らせる窓が設けてある。家人の話によると明治期に長島方面から移築したものだという。御浜御殿か中江番所なのか、今のところ確証はないが小屋裏に棟札が残っていればと期待している。



1階 間取り図



外観写真

一件は普通の民家造りで客座敷八帖、居間十帖と間は広い。家人の話によると明治二十五年の狩生大火の後に城下から移築したもので、毛利高泰書の扁額や久保田南崖の襖絵は建物に付いて来たものだという。襖絵は四枚あったが張替えのとき掛け軸に表装し、一本は表具屋に三本を兄弟で分けたという。

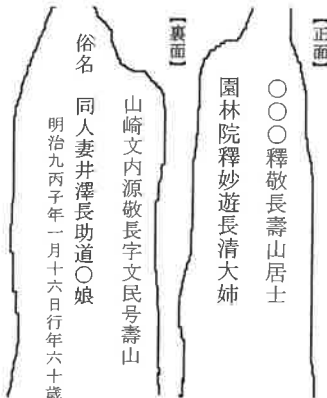
【毛利高泰】十一代藩主 天保三年〜文久二年（在任）
 天保十年（一八三九）女島沖ノ洲に御浜御殿を造営。
 万延元年（一八六〇）三ノ丸御殿修築落成。

【久保田南崖と山崎寿山】久保田南崖は佐伯藩士山崎太右衛門の次男、天保元年（一八三〇）中島町に生まれ、十八歳のとき久保田家を嗣ぐ。兄山崎太四郎は日田咸宜園に入門、江戸で谷文晁に画を学び文内、文民、寿山と号す。本田侯の画師桜間青崖が佐伯に來遊し山崎家に三年間滞在した。このとき兄弟ともに青崖に画を学んだ。南崖の墓碑は養賢寺裏山下にあったが壊されて今はない。益田学氏の「郷土の碑文」に記録が残されている。山崎寿山の墓は向島の住宅地の中にあり、一部欠損しているが自然石に刻まれた夫婦墓である。



「久保田南崖翁之碑」

熊本県知事松平正直扁額・広島県書記官
 奥井清風撰・熊本県士族内藤順太郎謹書



「山崎寿山夫妻の墓」



南崖の落款



毛利高泰扁額



久保田南崖 花鳥画



久保田南崖 花鳥画